

大分合同駅伝終了で幻に…

河野さん「鉄人」認定へ

速見郡 来月7・6キロ走破企画



県内一周大分合同駅伝競走大会で力走する河野さん。通算千キロ走破の偉業まであと7.6キロに迫っていた

【目出】幻のはずだった12人目の「鉄人」が誕生する。今春、終了が決まった県内一周大分合同駅伝競走大会で、鉄人と呼ばれる通算千キロ走破の偉業に、あと7.6キロに迫っていた速見郡チーム河野英樹さん(57)＝目出町藤原Ⅱの「鉄人認定プロジェクト」が来年1月15日にある。河野さんは「大会がなくなり、もうどうしようもないと思っていた。正式な記録には残らないが、このような企画をしてもらい、本当にありがたい」と話している。

当日は速見郡チームの一員として、国東半島駅伝に出走予定。フィニッシュ後、県信用組合目出支店前に移動。そこから町役場まで約500メートルを走る。残りの距離は事前に走破しておく計画になっている。

河野さんは大学卒業後、町役場に就職した年に初出走。以降、主力として32年間にわたりチームを引っ張った。近年は監督を兼務し、メンバー集めに奔走。人口規模が小さい町にあつて選手が思うようにそろわず、

シニアの年齢になっても一般区間を任せられるなど、苦しい台所事情の中、歯を食いしばって走り続けてきた。2020年の62回大会でチームは最下位に転落、21年からは新型コロナウイルス

禍の影響で休止となったが「このままじゃ終われない」と、大会の再開を信じ、練習は欠かさなかったという。しかし大会は終了。「自分がシヨックだったのもあるが、若い選手たちの成果を発揮する場所が失われ残念でならなかった」と振り返る。プロジェクトは町駅伝後援会関係者の声を受け、長年チームのマネジャーを務め、役場の同僚でもある藤本周司さん(58)が企画した。「英樹はけがをしていても弱音を吐かず、走り続けた。何かできないか、という気持ちだった」と盟友の思いが形になった。河野さんは「県内一周の再開は難しいかもしれないが、代わるような大会が生まれる機運が高まればうれしい」と期待を込めた。

(平野賢二)

